美深町自治会連合会だより　第51号

みんなのまちづくり

◇◇◇ 自治会活動支援事業 ◇◇◇

自治会連合会では、「自治会活動支援事業」を設け、単位自治会活動を積極的に支援しています。

本事業は、地域活動に対する意識の高揚と自治会独自に実施する事業を奨励し、活動を助長することを目的としています。

今年度は４つの自治会が独自の事業を展開し、にぎわいをみせていました。

新生みんなでワイワイ広場

春・秋パークゴルフ大会（恩根内）

第１自治会まつり 2018

2018 はなび☆フェス（第２）

道町連 助成事業 第２自治会が利用

北海道町内会連合会では「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動」「防災活動研修会支援助成事業」を実施しており、今年度は第２自治会が利用しました。

【ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり全道運動】

本事業は地域の福祉活動や健康の維持増進を図り、豊かな地域社会づくりを目的としています。

第２自治会は本事業を活用し65歳以上の世帯を対象とした台帳を作成しました。これからの福祉活動において活躍が期待されます。

また、交流事業としてリズムダンスやフロアカーリング等を実施し、地域の親睦を深めました。

【防災活動研修会支援助成事業】

本事業は大きな災害に備えて活動する防災訓練や自主防災組織研修会等に対し助成を行い、安心・安全なまちづくりを目的に実施しています。

第２自治会は、12月11日(火)に消防職員を派遣していただきＡＥＤの使用方法を主な内容とした研修会を実施しました。第２自治会は集会施設に公衆浴場を有しているため、万が一の事態に備えるとともにＡＥＤの重要さを再認識できたよい機会となりました。

平成30年度 定期総会を開催

4月25日(水)、文化会館COM100において、平成30年度美深町自治会連合会定期総会を開催しました。

総会には、各自治会から推薦された代議員計40人が出席しました。本平会長があいさつで今年度の抱負を述べ、山口町長が祝辞を述べた後、荒川賢一さん（第3自治会）が議長に選出され議事が進行されました。

今年度の事業は、自治会活動支援事業の実施や自治会長交流会、各種団体との意見交換会の開催や広域研修事業への参加など、平成30年度事業計画、収支予算案などが原案どおり可決されました。

自治会連合会重点目標

1. 自治会相互の連絡協調を図り、地域づくりを推進します。
2. 住民活動を積極的に推進します。
3. 行政及び各種団体と連携したまちづくりにつとめます。

挨拶をする本平会長

答弁を行う自治会連合会役員

平成30年度 自治会長及び自治会連合会役員名簿

自治会名	会長名	連合会役員
第1自治会	佐藤智三	事務局長
第2自治会	上坂貢	監事
第3自治会	苫米地正	理事
第4自治会	本平武士	会長
第5自治会	藤原芳幸	理事
新生自治会	越智茂信	副会長
仁宇布自治会	野村政弘	
東自治会	十亀孝宣	理事
南自治会	村田博美	監事
敷島自治会	佐藤昭二	
吉野自治会	森元康好	副会長
富岡自治会	中尾道廣	理事
斑渓自治会	遠藤一昭	理事
川西自治会	三田輝雄	
玉川自治会	竹本学	
西紋自治会	石崎正美	
恩根内自治会	山形重隆	

（敬称略）

コミュニティ助成で備品整備 第3自治会

第3自治会(苫米地正会長)は、財団法人自治総合センターのコミュニティ助成事業により、第3自治会にテーブル15台、椅子60脚、台車3台を整備しました。

第3自治会では、コミュニティセンターを自治会活動の拠点として事業を行っておりますが、今回の整備により、一層のコミュニティ活動の充実が期待されます。

全道町内会活動研究大会

５月29日（火）、全道町内会活動研究大会が札幌市で開催され、本平会長、越智副会長、佐藤事務局長、事務局担当者の４人で参加しました。

本大会は、北海道町内会連合会、北海道社会福祉協議会の共催事業で全道各地から331人が出席し、長年の功績をたたえる功労者表彰のほか「共に生きる社会づくり」をテーマとし、講演などが行われました。

表彰式では、美深町自治会連合会に10年以上貢献されている越智副会長、佐藤事務局長、苫米地理事の３人が功労者表彰を受賞されました。

また講師として首都大学東京人文化学研究科教授の玉野和志さんによる「町内会による住みよいまちづくり」をテーマとした講演をいただき、現代の町内会・自治会の課題と解決策などを学びました。

▲表彰を受けた佐藤事務局長、越智副会長、苫米地理事（左から）

平成30年度 道北ブロック町内会活動研究大会

10月４日（木）、道北ブロック町内会活動研究大会が豊富町で開催され、自治会連合会の越智副会長、佐藤事務局長、藤原理事、上坂監事、事務局担当者の５人で参加しました。

本大会は、上川、宗谷、留萌管内の道北地区の輪番制で開催しており、それぞれの管内の自治会役員など129人が出席し、町内会活動の現状や課題について情報交換を行いました。

講演では、ＮＰＯ法人シーズネット孤立防止担当理事の杉谷憲昭さんが講師を務め「地域との絆と支え合い～誰もが安心して暮らすためには～」をテーマに、高齢化社会が進む中、地域での繋がりを深めることの大事さを参加者に語りかけていました。

▲講演を聞く自治会連合会役員

第21回 町長杯争奪 自治会対抗パークゴルフ大会

９月22日（土）に「第21回町長杯争奪自治会対抗パークゴルフ大会」が町運動広場で開催されました。今年はチーム10組の計44人が参加し、スポーツの秋を楽しみました。

成績は次のとおりです（敬称略）

団体戦

☆優　勝	第２Ｂ	田上　史、中野勇治、東　一美 曽我部猛、新田千富
☆準優勝	第１Ａ	阿部賢一、簗瀬　勇、仲俣元喜 上坂由子
☆第３位	第２Ａ	羽山博美、米澤常樹、 石戸谷栄恵、水口アイ子

個人戦

☆A級	優勝 中野勇治	準優勝 小林裕二	第３位 東　一美
☆B級	優勝 羽山博美	準優勝 二宮京子	第３位 曽我部猛
☆C級	優勝 高野ハル	準優勝 菅野マリ子	第３位 田中　明

地域で支える社会福祉を考える
第17回 住民自治福祉大会を開催

町自治会連合会と町社会福祉協議会共催の第17回住民自治福祉大会を11月10日（土）、文化会館ＣＯＭ100で開催しました。

今年は「地域で支える社会福祉を考える」を大会テーマに、独立行政法人国立病院機構旭川医療センター名誉院長の箭原修さんを講師にお招きし、「認知症の理解と制度を利用した地域での支援について」をテーマに講演をいただきました。

箭原さんから、高齢化社会が進むにつれ認知症患者も増加の一途を辿っている中、その対策や認知症の基礎知識についてお話いただきました。

認知症になりにくい人は他人と楽しく会話をする人、身体をよく動かす人、読書をする人であることに対し、認知症になりやすい人の傾向としては社会活動への参加が少ないことが挙げられていました。箭原さんは「認知症にならないためには日頃から身体を動かし、よく話すこと。身体や脳に刺激を与えることで衰えづらく、元気に生活できる」と日常の過ごし方にも注意することが大事だと述べていました。

また、町内の福祉団体や関係団体による出店コーナー「福祉の杜（もり）」を開設し、地域特産品の販売が行われたほか、講演会場では美深町開拓１２０年の記念動画を上映し、歴史を振り返りながら、これからの美深町に期待を寄せ、講演までの時間を楽しんでいました。

▲認知症の現状について説明する箭原名誉院長

▲開会挨拶をする越智社協会長

▲お楽しみ抽選会

▲毎年恒例のにぎわいを見せた出店コーナー

▲昼食会の歓談

▲閉会の挨拶をする本平会長

平成30年度　自治会連合会視察研修

11月12日（月）、13日（火）の２日間、平成30年度自治会連合会視察研修を自治会役員６人と事務局担当者の計７人で実施しました。

国で「支える人」「支えられる人」の関係を越えて地域住民一人ひとりが地域を創っていく「地域共生社会」が目指されている中で私たちの暮らしを支えてくれている人たちの視点を学ぶため、３つの工場を視察し研修しました。

■ニッカウヰスキー余市蒸溜所

ニッカウヰスキー余市蒸溜所ではモルトウイスキーの製造工程を学びました。手順として製麦、乾燥、糖化、醗酵、蒸溜、貯蔵・熟成があり、敷地内の施設を見学しました。

創業者である竹鶴政孝氏の意志を受け継ぎ、昔と変わらない製法で美味しいウイスキーが作られていました。また、製造工程にある蒸溜では石炭を使用しますが、石炭で蒸溜作業を行うのは世界で余市蒸溜所だけのようです。

■石狩LNG（液化天然ガス）基地

石狩LNG基地ではLNGが活用される行程を視察しました。LNGは化石燃料の一つで、その中で最も環境に優しいため、地球温暖化に与える影響は低く、世界各地で採れるため、石油と違い安定供給が可能な資源です。このガスの体積を小さくするため温度をマイナス162度まで下げ液化させてから貯蔵・運搬します。こうして液化されたものがローリー車などで北海道の各地へ運搬され、さまざまな用途で活用されています。

■江別市環境クリーンセンター

江別市環境クリーンセンターではごみ処理の行程や施設内の設備を視察しました。江別市環境クリーンセンター内のごみピットには700トンまでごみを貯めることができ、ピットへ運ばれたごみはクレーンにより可能な限り細かくされます。その後ごみは破砕機の中へ投入されさらに細かくされた後、施設の目玉とも言える「熱分解ドラム」に投入し約450度で加熱することにより、熱分解ガスとカーボンに改質されます。この２つを熱源とし「燃焼溶融炉」により約1,300度で焼却し、灰分をスラグという物質に変換します。スラグは道路の補修材などにも使われており、ごみ処理の際に生じる物質も有効活用していることが分かりました。

■最後に

今回の視察研修では、私たちの暮らしを支えている人たちは普段どのような活動、考えをしているのかを見て聞いて学ぶことができました。「支える人」が常に安心・安全を私たちに届けようとしていることを見習い、９月に起こったブラックアウトのような非常事態に備え、地域住民全員が支えあえるような美深町を作っていきたいという思いが強くなった研修となりました。

平成30年度

全町シニア元気アップフェスタ

町社会福祉協議会と町自治会連合会共催の「全町シニア元気アップフェスタ」を11月22日(木)、23日(金)の2日間にわたり町民体育館で開催しました。

この事業は美深町全域のシニア世代を対象とし、身体を動かして元気アップを図ろうとするものです。今年度が初の試みとなりましたが、参加者は200人を越え、大盛況のイベントとなりました。

開会式では88歳以上の参加者を対象に13人が「高齢者表彰」を受賞されました。1日目の競技は「輪投げ競争」ほか三種目で、全10チームが接戦を繰り広げました。昼食にはいぶきの会の「豚汁」のほか、ビブリオテークとおきらくカフェの軽食コーナーも設けられました。個人競技では「ペットボトル立て」を行い、多くの皆さんが積極的に参加され、楽しく身体を動かしていました。

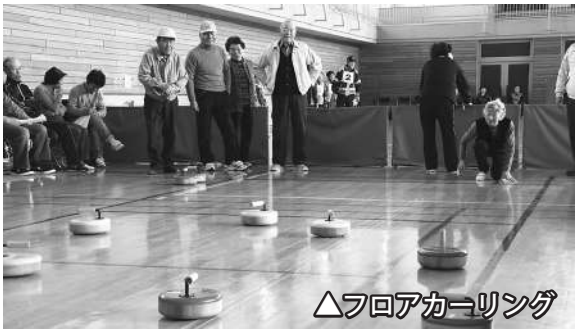
2日目には「フロアカーリング」のほか二種目が同時開催され、初日に続き盛会裏に終わりました。

参加者の皆さんからは「楽しかった」「来年もやりたい」との感想をいただき、次年度以降の取り組みも検討していきます。

▲挨拶をする越智社協会長

▲ゆっくりゆっくり

▲輪投げリレー


▲フロアカーリング

▲インドアゴルフ

上川管内町内会自治会連絡協議会研修交流会

▲講演をする河口所長

10月22日(月)、上川管内町内会自治会連絡協議会研修交流会が士別市で開催され、自治会連合会の本平会長、越智副会長、森元副会長、佐藤事務局長、上坂監事と事務局担当者の計7人で参加しました。

この研修交流会では、上川管内町内会自治会連絡協議会主催で、上川管内から62人が参加し、情報交換を行い交流を深めました。士別市環境センター所長の河口光輝さんを講師に「士別市におけるごみ減量化について」と題し、ごみ減量化の施策や集めたごみを処分する行程について講演をされ、講演終了後には施設を視察し、理解を深めることができました。

自治会連合会意見交換会

町議会議員懇談会を開催

自治会連合会では、自治会活動をより良いものとするため、毎年各自治会の専門部担当者や各団体の代表者との意見交換を開催しています。

今年度は平成26年度、28年度に続き3回目となる町議会議員との意見交換会を11月27日(火)に役場大会議室で開催しました。

意見交換会には、自治会長、町議会議員、事務局担当者の総勢25人が出席。主催者を代表して本平会長が「美深町は他の市町村と比べ、町民の自治会加入率が良い。また、他の市町村との研修や情報交換が盛んに行われているので現状を維持しながら活動していきたい」とあいさつ。

続いて、南議長からは「数多くの課題をかかえる自治会から、たくさんの悩みを聞き、可能な限り拾い上げていきたい」とあいさつされ、意見交換会が始まりました。

この意見交換会では、事前に各自治会から調査票を取りまとめ、当日は調査票を基に話し合いました。

主な内容は次のとおりです。

平成31年度以降の美深町における主要政策事業

自治会からは、チョウザメ推進事業や仁宇布小中学校について意見を出しました。チョウザメ事業では、大きな施設を建てたが維持管理をするのは町なのか。仁宇布小中学校では、山村留学制度を続けていくのか、また次世代で支えていけるのかと不安の声が挙がりました。

これに対し議会側は、ランニングコストは非常に高いが間違いなく日本一の飼育施設になる。また、仁宇布の山村留学制度については、全国各地から子供たちが集まってきて充実した仁宇布地区での生活を過ごしており、今年も数件要望があった。また、学校祭に行った際には、生徒が活き活きと活動をしており、仁宇布地区の山村留学制度の重要性を感じていました。

美深町の医療・福祉・介護

9月の停電のときは、情報共有が十分とは言えなかったため、情報を公開する際は大々的に行うことが大事という意見が挙がりました。また、美深町の福祉・介護・医療機関施設などを一箇所にまとめることはできないかという意見も挙がりましたが、議会からは、各施設の制度上の規制もあり一箇所にまとめることは理想だが現状は厳しいのではとの回答がありました。

今後の美深町の重要だと思われる課題

主に街路灯や除雪の意見が出ました。街路灯では自治会の予算のうち街路灯予算が多くを占めている自治会もあり、維持管理が大変であるとの意見が挙がり、除雪では依頼があれば空き家の雪下ろしを自治会長がやっている場合もあるが、その他の場合は個人の財産のため手がつけられないのが現状と意見がありました。

最後に

自治会の多くの悩みが話題に挙がりました。本会では結論が出ないものもありましたが、お互いに現状を把握できる良い機会となり、美深町の課題や問題点を再確認することができた意見交換会となりました。

〈消防後援事業〉
美深消防団出初式・新年交流会

▲あいさつをする本平会長

▲新年交流会

平成31年1月5日(土)、文化会館COM100で美深消防団出初式、交流会が行われ、出初式には団員、署員あわせて約60人が参加し、消防訓練や機械器具点検、分列行進が行われました。

引き続き、文化ホールにて式典を行い、永年にわたり消防団に勤続した団員に表彰状が贈られました。

新年交流会では、消防団員、消防職員、町団体関係者など62人が出席し、本平自治会連合会長、小野寺消防団副団長からあいさつを頂き、続く北はるか農業協同組合の中瀬組合長からは「今年は火事が起こらず消防団の出動がない年となれば良い」とあいさつの後、乾杯で本会が始まりました。

出席者は、新年のあいさつを交わしながら、町の特産品が当たる余興を楽しみ、日頃の慰労とともに今年1年間の活動に向け、気持ちを新たに美深町の安全を守る決意を固めていました。

平成31年 自治会長会議・新年交流会

平成31年1月12日(土)にびふか温泉で町と意見交換を行う自治会長会議・新年交流会を開催しました。

自治会長会議では、自治連の事業である住民自治福祉大会や11月に開催した意見交換会の報告、またこれからの自治会活動について協議しました。

▲開会の挨拶をする本平会長

町からは平成31年度自治会活動推進交付金やコミュニティセンター指定管理料などの説明を受けました。

続いて、町理事者を交えた新年交流会を開催し、平成31年の自治会連合会が飛躍する年になるよう親睦を深めていました。

▲懇親会での歓談

みなさんの地域の活動や話題を、豊富に掲載してまいります。
お気軽に、事務局にお話をお聞かせください。

事務局 美深町役場 総務課 企画グループ
美深町字西町18番地 ☎2−1645

平成31年度 自治会連合会定期総会

日 時 平成31年 **4月下旬** 予定

場 所 美深町文化会館COM100 小ホール